

赤酢飯ーらぎQ

・・・前回からの続き。「ふくらぎ」と「胡瓜」の組合せから「らぎQ」との命名は、自然かつ瞬間であったし、迷いは無かった。もし、その名に難癖をつけるなら「ふくらぎ」から「ふく」が外れて「福」が無いと思われることぐらいだ。しかし、これを召し上がることによって、「福」が来たり、付いたり、舞い降りてきたりして「ふくらぎQ」となる



んだとポジティブに考えると、「これでいいのだ！」と帰趨することになる。

当初考えた「ふくらぎ／胡瓜／（通常の）白酢飯」の組合せには、ずいぶんと苦戦を強いられたが、結論は、何度やっても「ダメ」であった。（何が悪いかは、割愛）

「なんとかならんか」と思索途中にふと、以前に実施した「217. 涼香巻（りょうこうまき）、赤酢飯ー涼香巻（りょうこうまき）、217. 02. 涼香判」が大変良かったことを思い出した。「でも、大葉では巻けない」と一瞬、否定の考えが脳裏を過ったが、「海苔巻のまま、大葉は、中に挟み込めばいいんだ」と即解決・即実行。結果「胡瓜／大葉／ふくらぎ／白胡麻／塩昆布／鰹節と赤（酒粕）酢飯」最高の「和音」が奏でられた。

「みんな仲良し」でいいんですよ。海苔だって存在感あるよ。大切な仲間だ。